

項番	機能要件	可否
E	放射線画像管理システム(PACS)	
E.1	PACS	
E.1.1	基本要件については以下の要件を満たすこと。	
E.1.1.1	電子保存の三原則における「保存性」に基づき、運用必要相当分のオリジナル画像データを安定的に保存すること。また、システム更新時に既設の全データの利用、データ移行をスムーズに行えるように標準規格DICOM(Ver.3.0)でデータが保存されること。	
E.1.1.2	電子保存の三原則における「見読性」に基づき、標準規格DICOM(Ver.3.0)に対応した様々な画像表示装置で、画像保存装置内の画像表示ができること。また、モニタの劣化が読影・診断の妨げとならないために、標準規格DICOM(Ver.3.0)Part14に基づき定期的にこれらを測定・補正・管理し、フィルムと同等の見え方を維持できること。	
E.1.1.3	病院情報システム(HIS)から放射線診断部門システム(診断RIS)を経由して検査オーダー情報を取り込み、画像データ属性と合わせてデータベース化し、診療サイドの目的ごとに容易に検索できる環境を提供すること。	
E.1.1.4	検査装置から受信した画像データとHIS/診断RISから受信したデータの検査番号と患者IDが一致した場合は、画像データの患者氏名、生年月日、性別等の情報をHIS/診断RISから取得したデータを基に作成できること。	
E.1.1.5	管理されている全ての画像(オリジナル画像)は、おおむね2~3秒で院内全ての端末に対してオンデマンド表示できること。	
E.1.1.6	放射線部門以外からのDICOM画像を収集できること(超音波、内視鏡画像等)。	
E.1.1.7	システムは、緊急検査、時間外検査にも対応するために原則24時間運用を基本とすること。	
E.1.1.8	診断RIS、PACS、レポートシステムが同一の利用者IDで運用することとし、シームレスに利用できること。	
E.1.1.9	画像保存容量は、物理容量で15TB以上とすること。	
E.1.1.10	画像サーバは、ハードウェアの増設により画像保存領域の拡張ができること。	
E.1.2	画像サーバ機能については以下の要件を満たすこと。	
E.1.2.1	画像管理機能	
E.1.2.1.1	本院のDICOM対応の各撮影装置(CT、MR、CR、DR、US、ES等)と接続を行い、DICOM画像の受信ができること。	
E.1.2.1.2	受信したDICOM画像はDICOMオリジナル画像(可逆圧縮)で画像保存用ディスクストレージ内に保存できること。	
E.1.2.1.3	読影支援端末等画像ビューアからの画像検索・取得要求時のインタフェースとしてDICOMインタフェース及び通常のファイル転送による画像共有よりも高速表示が可能な専用高速通信インタフェースを有すること。	
E.1.2.1.4	モダリティからの画像受信、DICOM機器からのQuery/Retrieveに対応できるDICOM通信機能を有すること。	
E.1.2.1.5	他メーカーのDICOM規格準拠の画像ビューアとの接続が可能であること。	
E.1.2.1.6	受信したDICOM画像は保存期間及びスライス厚の設定により、保存期間経過後、設定スライス厚以下のシリーズ画像を自動的に削除する機能を有すること。 また、削除対象のシリーズはモダリティ種別毎に閾値を設定できること。	
E.1.2.1.7	画像管理サーバで受信したDICOM画像を自動的に予め指定した装置にDICOM形式で転送できること。転送の際、対象画像をスライス厚により制御できること。(全画像転送、ThickSliceのみ転送、ThinSliceのみ転送)	
E.1.2.2	データベース機能については以下の要件を満たすこと。	
E.1.2.2.1	画像保存用ディスクストレージに保存されるDICOMオリジナル画像(可逆圧縮)及び二次媒体に保存された画像を管理できること。また、院内ネットワークに接続されている全端末において管理権限を有する特定者がWebブラウザで保存状況の確認やデータ変更、削除ができること。	
E.1.2.2.2	放射線部門情報システムと連携し、オーダー情報(患者氏名、生年月日、性別、依頼科、依頼医、検査部位等)を統合管理でき、ビューア上の検索画面ではオーダー情報での検索および一覧表示が可能であること。	
E.1.2.2.3	個人情報保護に対応するための技術基準として認証機能、監査証跡機能、監査証跡表示機能を有すること。また、院内ネットワークに接続されている全端末において管理権限を有する特定者がWebブラウザ上で監査証跡情報を確認できること。	
E.1.2.2.4	受信した画像データを自動的に転送できること。また、転送先の変更や転送状況の確認を院内ネットワークに接続されている全端末から管理権限を有する特定者がWebブラウザで変更・確認できること。	
E.1.2.2.5	システム管理ツールのユーザー認証については、ユーザ名とパスワードで認証できること。	
E.1.2.2.6	画像情報管理システム、所見レポート作成システムのユーザー情報を一元管理する機能を有すること。また、院内ネットワークに接続されている全端末から管理権限を有する特定者がWebブラウザ上でユーザー情報の確認、登録、削除、ユーザー毎の操作権限を変更できること。	
E.1.2.2.7	データベースは外付けディスクにバックアップを保存できること。	
E.1.2.2.8	IHE-J SWF、CPI、ARI、PIR、のプロファイルに対応すること。	
E.1.2.2.7	検査装置毎のストレージ使用量の元データと成る統計情報をデータベース上に管理できること。	
E.1.2.2.8	HTTPプロトコルによるユーザ認証、データベースの検索ができること。	

項番	機能要件	可否
E.1.2.3	画像電子保存機能については以下の要件を満たすこと。	
E.1.2.3.1	モダリティからの画像受信時、受信記録を取れる機能を有すること。	
E.1.2.3.2	画像データに付随するタグ情報の修正時には修正記録が取れる機能を有すること。	
E.1.3	統合参照機能については以下の要件を満たすこと。	
E.1.3.1	病院情報システム端末（以下、HIS端末という。）から患者IDを条件に、該当患者の検査状況、検査履歴を時系列に参照できるマトリックスビュー機能を有すること。	
E.1.3.2	マトリックスビューでは、それぞれの検査状況を時系列で判別できる表示形態（以下、カレンダー表示）と、検査の予約・実績情報のみを表示する表示形態（以下、検査履歴表示）の両方の表示が行えること。	
E.1.3.3	マトリックスビューは、検査予約、検査実施、画像確定、所見確定の4つの情報を管理し、各表示形態のマトリックス上にアイコン表示すること。	
E.1.3.4	カレンダーと検査履歴の表示形態は、1操作で切り換えられること。また、検査種別、時間の縦横軸も1操作で切り換えられること。	
E.1.3.5	カレンダー表示では、単位を日、月、年単位で切り換えられ、タイムライン機能で、目的の期間の情報を容易に変更できること。	
E.1.3.6	マトリックス上に表示される各アイコンは、マウスによるパルーン表示機能に対応すること。パルーン表示する内容は、ステータス毎に最適な情報を表示すること。	
E.1.3.7	検査前、検査予約のアイコンからパルーン表示した際、検査部位、依頼科、依頼医、検査目的を表示すること。	
E.1.3.8	マトリックス上の検査種別の設定は、ユーザー単位で表示順、表示・非表示の設定、複数の検査をその他検査として集約する等の設定ができること。	
E.1.3.9	パルーン表示上に表示したシリーズ毎のサムネイル画像から1クリックで画像ビューアを展開できること。また、マトリックス表示上のアイコンから所見Web参照画面を展開できること。	
E.1.3.10	患者毎ポータルサイトは検査履歴で表示する検歴モードと時系列に表示する時系列モードを有すること。また、モード変更、表示する検査種別、縦横表示等はユーザー毎に任意に変更可能なこと。	
E.1.4	画像ビューア機能	
E.1.4.1	読影支援端末については以下の要件を満たすこと。	
E.1.4.2	DICOM対応機器への画像検索・取得要求インタフェースとしてDICOM通信機能（DICOM Query/Retrieve Service SCU）を有すること。また、画像情報管理サーバへの画像検索・取得要求インタフェースとして通常のファイル転送よりも高速な専用高速通信インタフェース機能を有すること。	
E.1.4.3	院内で使用する全ての画像参照端末は、同一のソフトウェアを使用し、同一の機能及び操作性を持つ画像ビューアを導入すること。	
E.1.4.4	イメージャー装置へのフィルム出力インタフェースとしてDICOM Print Management SCUの機能を有すること。 また、フィルム出力については権限を持つユーザのみ出力できること。	
E.1.4.5	フィルムへのプリント出力ができること。フィルム出力の対象画像をスタディ、シリーズの一括出力、スキップ印刷、スカウト画像取込、出力対象からの解除が任意にできるパレットを使用して出力できること。	
E.1.4.6	任意の画像イメージをWindows標準の印刷機能を使用して印刷できること。	
E.1.4.7	画像の取得及び表示が1操作で行えること。	
E.1.4.8	画像ビューアで表示させる全ての画像はDICOMオリジナル画像での表示とすること。	
E.1.4.9	一度表示した画像は設定した任意枚数を端末のメモリ上に残し、再度表示する際にサーバから再取得せずに表示できること。また端末毎に任意に指定した枚数を超えた場合は、表示時刻の古いものからメモリ開放を行うこと。	
E.1.4.10	ThinSlice画像等の大量の画像データが有る場合、予め指定した条件で画像を自動取得することで高速に画像が表示できること。	
E.1.4.11	画像表示画面上で、検査履歴一覧を表示でき、表示方法はパレットおよび画像表示領域の上側または下側へのドッキングを1操作で任意に切換え、表示・非表示できること。また、検査履歴一覧は右クリックメニューに登録でき、複数画面構成時に選択検査切替の為、検査履歴一覧で選択して切り替える事をマウスカーソルの検査履歴一覧への移動無に変更可能なこと。	
E.1.4.12	検査履歴一覧上にマウスカーソルを移動するだけでスクロール等の操作無に検査履歴一覧に同一患者の検査一覧を表示できること。	
E.1.4.13	検査履歴一覧は、選択検査と同一種別一覧以外にユーザー毎、検査種別毎に、任意の検査種別を設定できること。また、検査毎にマークを表記することで表示画像の視認また、今回検査と他検査の画像情報の文字色をユーザ毎に任意に指定する事で視認性を向上すること。	
E.1.4.14	検査履歴一覧で選択した検査画像のシリーズ画像（先頭・真ん中・最後のいずれかから選択可能）をサムネイル表示でき、サムネイル上で画像送りができること。また、MG画像およびCR画像のサムネイル表示はシリーズ単位かイメージ単位かを選択してサムネイル表示できること。	

項番	機能要件	可否
E.1.4.15	検査履歴一覧のサムネイル画像は、選択した検査のシリーズ画像のサムネイルだけを表示するモードと今回検査のシリーズ画像のサムネイルを固定し、選択検査のサムネイルを2つ迄表示するモードから選択できること。選択検査のサムネイルのみ表示するモードでは、検査種別毎に最大4つまでDICOMタグ情報を任意に表示できること。サムネイル画像からのドラッグ&ドロップもしくはダブルクリックで、任意のウィンドウにスタディ画像またはシリーズ画像を反映できること。割付の際、複数のシリーズ画像を選択して一括割付できること。	
E.1.4.16	同一ビューア上で別ウィンドウに別の患者の画像を表示して、比較用症例画像として利用できること。	
E.1.4.17	操作のターゲットとなる複数のウィンドウの枠の線の色、太さ、線種を任意に設定でき、モニタの種類に関わらず、ターゲットウィンドウを明確に表示できること。また、ウィンドウごとにグルーピングを設定でき、フォーカスをあてたウィンドウと同じグルーピングのウィンドウで同一操作がなされ、別のグルーピングは操作対象外となること。グルーピングは任意に指定するか、同一検査日、同一検査、同一方向を一操作でグルーピングできること。また、ダブルクリックにて同一グルーピングのものだけウィンドウ上に表示できること。	
E.1.4.18	ウィンドウのグルーピング操作はマウス操作だけで実施可能なこと。	
E.1.4.19	ターゲットウィンドウをクリックする事無く切り替える事ができること。	
E.1.4.20	Window Level/Widthの階調調整及びプリセット設定が行える機能を有すること。階調調整は、マウス及び直接数値入力にて対応でき、プリセットとして検査種別毎に10個以上設定して、ファンクションキーに割付ができる機能を有すること。また、DICOMタグに登録されている複数階調での表示を一操作でできること。	
E.1.4.21	マンモ画像の白黒反転時には乳房部分のみ白黒反転ができること。	
E.1.4.22	画像表示機能として、画像分割表示、マルチスタディ表示、表示順ソート、原寸表示、実寸表示、最適化表示、FOV等倍、画像拡大・縮小、拡大率プリセット、範囲指定した画像の拡大、画像反転・回転・任意の角度への回転、虫眼鏡、画像送り、ページ送り、シリーズ送り、シネ表示、コマ送り、スキャンライン表示、クロスリファレンス表示、フィルタ処理、画像情報表示、スケール表示、フュージョンが行える機能を有すること。	
E.1.4.23	割り付けた画像はマウス操作で自由に画像位置を移動させることができ、任意の場所を中心に参照できること。	
E.1.4.24	画像が割り付けられた全てのウィンドウ内にスクロールバーを配置し、見たい画像をスクロールバー操作で高速に表示できること。	
E.1.4.25	画像送りは、ループ（最後の画像の次の画像は最初の画像が表示されること）送りが可能であること。	
E.1.4.26	計測・マーキング機能として画像マーキング、距離計測、連続する直線の合計距離計測、フリーハンド描画による距離計測、距離比率計測、角度計測、三点角度計測、ROI面積計測、ROI濃度平均値計測、ROI濃度標準偏差計測、心胸郭比計測、Time Intensity Curve、ADC値、SUV値、球の体積計測、肺結節計測が行える機能を有すること。ROIについては、手動及び閾値で判断した自動方式にて計測できること。マーキングについては、色の変更、文字のサイズ、ラインの太さを全て任意に設定できること。また、描画したオブジェクトは連動した全てのウィンドウに1操作で反映できること。この際、コピー先ウィンドウの画像データのPixelデータで補正を掛けてコピーできること。	
E.1.4.27	整形用計測機能として側弯度（Cobb角）計測、CE角-1本線、CE角-2本線、適合角、FTA、1線比率、2線比率（非平行線）、2線比率（平行線）、中点計測法での計測ができること。	
E.1.4.28	範囲指定した画像に対してピクセル毎のCT値を計測し、閾値の範囲に合わせて色分けして表示するCT値のマップ化ができること。	
E.1.4.29	スカウト画像を選択して、複数断面に対するスキャンラインの表示ができること。スカウト画像はパレット上に表示するかウィンドウ内に表示するか任意に選択できること。また、画像上の任意の場所をクリックすることにより、他ウィンドウに割り付けられているシリーズでその場所に一番近い断面及びクリックした場所（ターゲットポイント）を表示できること。	
E.1.4.30	画像操作に対する全ての機能について、アイコンと右クリックメニューからの両方にて操作でき、表示・非表示及び並び順については共にユーザー単位で設定できること。また、アイコン1つ1つにおいて、文字あり/文字なしタイプを選択できること。設定内容を変更する場合には、ビューア画面上から簡単に変更できること。また、画像送り、画像移動、階調変更、サイズ変更はマウス操作のみで行えること。	
E.1.4.31	画像操作に対する全ての機能について、ユーザー単位でキー割付できること。キーは、ShiftやCtrlとの組み合わせ、及び複合キー（任意のキーとキーの組み合わせ）での設定もできること。	
E.1.4.32	画像割付や階調変更などの操作の取消し、やり直しを一操作でできること。	
E.1.4.33	一連の操作（複数の機能）をマクロとして登録し、一つのキーとして割り付けられること。	
E.1.4.34	ユーザー毎、検査種別毎、部位毎に、初期表示時の画像表示エリアのウィンドウ分割数や各分割へ表示するスタディ画像またはシリーズ画像の割り付け、グルーピング及び表示画像の階調設定（以下レイアウト）が可能であること。また、検査種別毎に複数のレイアウトプリセットを登録でき、一操作で登録したレイアウトに変更できること。設定内容の登録や変更は、ビューア画面から簡単に変更できること。	

項番	機能要件	可否
E.1.4.35	新規ユーザー登録時にはデフォルトの設定を反映し、個々に設定しなくてもデフォルト(標準)設定を引き継げること。	
E.1.4.36	画像保存用ディスクストレージに保管される画像から任意の検査を選択し、読影対象または学会発表用など任意検査一覧を作成できるマイリスト機能を有すること。	
E.1.4.37	典型的な症例や正常な症例を登録・呼出しができる症例データベース機能を有すること。	
E.1.4.38	画像表示画面にて表示されている画面レイアウト(ウィンドウの分割数やそのウィンドウごとに検査単位、シリーズ単位で割付けられた画像全て)をそのまま一時的に保存し、いつでも1操作で同じ状態を再現できる一時保存・復元機能を有すること。また、名前をつけてサーバ上(もしくは端末上)に複数保存でき、いつでも保存リストから1操作で同じ状態を再現できるカンファレンス機能を有すること。その際、画像(複数画像でも可)に対して、サイズ変更、階調変更、画像位置の移動、マーキング、計測を実施した場合には、その情報を全て保存し、保存時と同じ状態にて表示すること。	
E.1.4.39	カンファリストは登録の際、患者情報を自動取得し、見出しとして利用できること。また、月別、週別でのフォルダー管理ができること。	
E.1.4.40	画像ビューアは、異なるシリーズの画像を同一スライス位置(同一スライス位置の画像が存在しない場合は最も近いスライス位置)にてシンクロ表示ができること。自動位置合わせはスライスロケーション情報で合せ込みをするタグ合わせと画像処理により位置補正を行う位置合わせができること。また、目視でスライス位置の差分をとってシンクロ表示を行う手動位置合わせができること。位置あわせを行う際には、自動的にFOVをあわせて表示できること。	
E.1.4.41	読影時にキー画像選択を行なった場合、キー画像だけを表示できる機能を有すること。	
E.1.4.42	1モニタ当たり10ウィンドウ以上に分割でき、ウィンドウごとに検査単位もしくはシリーズ単位での割り付けを可能とし、全ウィンドウ間でシンクロ表示を実現すること。また、割り付けられたウィンドウはさらに20分割以上に分割可能なこと。ベゼルレスタイプのモニタへの対応として横ウィンドウ数を奇数で分割できること。	
E.1.4.43	画像ビューアは、異なるシリーズの画像を同一スライス位置(同一スライス位置の画像が存在しない場合は最も近いスライス位置)にてシンクロ表示を行う自動位置合わせ機能を有すること。また、位置合わせを行なう画像を任意に設定し、その位置を基準にスライス位置の差分をとってシンクロ表示を行なう手動位置合わせ機能を有すること。位置あわせを行う際には、自動的にFOVをあわせて表示できること。	
E.1.4.44	シンクロ表示は位置合わせ機能後、目視で位置を変更して連動させる場合と目視で位置合わせ後、連動させる場合の2つのモードをユーザー毎に設定可能なこと。	
E.1.4.45	シンクロ表示時に拡大・縮小、階調の変更をウィンドウ毎に変更できること。	
E.1.4.46	画像ビューアにて、スタディ単位、シリーズ単位、割り付けられたウィンドウ単位、連動している複数のウィンドウ単位及び選択された任意の画像をDICOM、JPEG、BITMAP、TIFF、GIF、AnimationGIF、AVIまたはPowerPoint2007形式にて端末のハードディスク等に一括保存できること。 また、PowerPointに出力する際、出力範囲、クオリティ、レイアウトされている複数のウィンドウ画像を一括保存ができること。	
E.1.4.47	画像保存はスタディー括、シリーズ括、予め指定したキー画像のみの条件で保存できること。また、連動したウィンドウの画像を保存する際にはウィンドウ毎にホルダーを分けて一括保存できること。	
E.1.4.48	DICOM画像を検査単位、もしくはシリーズ単位で簡易ビューア付きCD/DVDメディア及び任意のフォルダに保存することができ、CD/DVDドライブ装備の端末であればDICOM画像を表示できること。また、簡易ビューアはデザインおよび操作性を本ビューアと同一とし、ヘルプ機能の搭載により誰でも簡単に使用可能なこと。所見レポート作成システムにて確定した所見については、PDFで画像と共にメディアに書き込めること。	
E.1.4.49	CD/DVDメディア作成の際、患者ID、患者名、誕生日、施設名の匿名化ができること。また、ThinSliceシリーズを出力対象外にできること。	
E.1.4.50	マンモグラフィ画像表示においては、1面モニタおよび2面モニタでの表示が可能であること。2面モニタの場合は[今回のML0-右+ML0-左(左モニタ)]+[CC-右+CC-左(右モニタ)]、[今回ML0-右(左)+前回ML0-右(左)(左モニタ)]+[今回CC-右(左)+前回CC-右(左)(右モニタ)]での表示ができ、左モニタを最大化、右モニタを最大化、原寸上部・中央・下部、トモシンセシス画像といったような表示ができること。今回・前回で表示させる場合には、対称表示及び同一方向表示のどちらかを任意選択できること。また、展開した画像はマスク機能を使用できること。	
E.1.4.51	複数シリーズが混ざって1シリーズとして登録(並び順:1(シリーズNo.)-1(イメージNo.)、2-1、3-1、1-2、2-2、3-2、...)された場合に、指定したシリーズを抽出して別シリーズとしてウィンドウ割り付けを行う指定レイヤー表示機能を有すること。	
E.1.4.52	画像表示画面のウィンドウ上に割り付けられたシリーズ画像から、1操作にて同じ画面上にサジタル画像と coronal 画像を同時に並べて表示するMPR/MIP表示ができること。MPR/MIP画面は同一ビューアの空きウィンドウ上にアキシャル画像、サジタル画像、 coronal 画像、オブリーク画像を表示するモードとMPR/MIP画像のみ表示するモードから選択できること。	
E.1.4.53	画像表示画面のウィンドウ上に割り付けられたシリーズ画像から、1操作にて設定したスライス厚にて画像をリスライスして表示できること。	

項番	機能要件	可否
E.1.4.54	ウィンドウ上に配置したシリーズ画像からMPR画像で表示できること。MPR画像は任意のスライス厚と間隔で表示できると共にアキシャル、サジタル、コロナル画像を1操作で切り替えて表示できること。 また、他のウィンドウ上にドラック&ドロップでアキシャル、サジタル、コロナル画像をコピーできること。 MPR画像を表示しているウィンドウ上に操作を初期状態に戻すリセットボタンとスライス厚や階調を設定したプリセットボタンを2つ迄登録できること。	
E.1.4.55	患者間違いを防止するために、複数のビューア（ウィンドウ）が立ち上がらないよう制御すること。	
E.1.4.56	画像表示の一貫性確保のために読影時点での画像階調情報及び回転、マーキング情報等を保存し、再度画像表示を行なった場合に読影時と同じ表示状態を再現できること。	
E.1.4.57	画像表示画面のウィンドウ上に割り付けられたシリーズ画像上で一部関心領域（ROI）をマウスで指定することでボリュームレンダリング（VR）画像を表示できること。	
E.1.4.58	JPEG、BITMAP、PNG等の汎用データを画像ビューアの空きウィンドウにドラック&ドロップで入れる事でDICOM画像として取込、2.項画像情報サーバに登録できること。 取込の際、患者ID、患者名、誕生日、性別、検査日、検査時刻、検査ID、受付番号、検査記述、検査種別、部位等の情報を登録できること。	
E.1.4.59	所見レポート作成システムと連携し、所見管理システム機能を満たすこと。所見レポート連携機能として、以下の機能を実装すること。	
E.1.4.60	計測直後の計測結果は、自動的にクリップボードに保存され、一操作で所見管理システムに貼り付けられること。また、貼り付ける計測結果は、小数点以下の桁数をユーザーにて設定することができ、距離はmm、CT値はHUなど単位も自動的に貼り付けられること。	
E.1.4.61	画像の一部分を範囲指定して、ダブルクリックにてキー画像として貼り付けられること。範囲指定した場合には、同一シリーズ、別シリーズにかかわらず、一操作で同じ範囲を選択でき、キー画像として貼り付けられること。	
E.1.4.62	画像ビューア上に置いてあるマウスポインタを動かさずキー操作にて所見管理システムをアクティブにして、所見入力が行えること。	
E.1.4.63	画像ビューア上の任意の画像をキー画像として所見レポート作成システムに送信できること。また、複数ウィンドウにレイアウトした画像を1枚のキー画像として所見レポート作成システムに送信できること。	
E.1.4.64	画像ビューアのカンファリストに登録したレイアウトを所見レポート作成システムに送信できること。また、所見レポート作成システムから登録したレイアウトを画像ビューア上で再現できること。	
E.1.4.65	個人情報保護対応機能として、ユーザーID、パスワードによるユーザー認証機能、ユーザー毎に操作することができる機能を制限するアクセス制御機能、操作の履歴をサーバ上のログに記録する監査証跡機能、一定時間の非操作により画面を非表示とするオートログアウト機能、データを端末に保存する場合に個人情報の置換または削除を行う匿名化機能を有すること。また、管理権限を有する特定者が院内ネットワークに接続されている全端末からWebブラウザにてユーザー情報、アクセス制御情報、監査証跡情報を確認できること。	
E.1.5	ライセンスについては以下の要件を満たすこと。	
E.1.5.1	当院既存のオーダリング端末及び本調達の端末で画像ビューアを起動し参照できること。画像ビューア参照ライセンスは、ライセンスフリーであること。	
E.1.6	装置接続については以下の要件を満たすこと。	
E.1.6.1	別表2に示す当院の所有又は調達予定の装置と接続を行うこと。 装置ベンダー側で発生する費用については本調達外と位置付けるが、内視鏡装置については	
E.1.7	データ移行については以下の要件を満たすこと。	
E.1.7.1	現在保管しているDICOM画像データについて新システムへ移行すること。但し、画像ファイルの破損、DICOM規約違反等の原因により移行できないデータについては、対応方針を病院関係者と協議すること。	
E.2.1	ライセンスについては以下の要件を満たすこと。	
E.2.1.1	別表1に示す通りライセンスを準備すること。	
E.2.2	装置接続については以下の要件を満たすこと。	
E.2.2.1	別表2に示す当院の所有又は調達予定の装置と接続すること。 装置ベンダー側で発生する費用については本調達外と位置付けるが、内視鏡装置については 装置ベンダー側費用も本調達に含めること。	
E.3	画像取り込み・出力機能については以下の要件を満たすこと。	
E.3.1	CD・DVDパブリッシャー装置は下記の機能を満たすこと。	
E.3.2	CD・DVDパブリッシャーは読影支援端末と同一のビューアよりCD・DVDを作成できること。	
E.3.3	DICOM画像を検査単位、もしくはシリーズ単位で書き込みが可能なこと。	
E.3.4	CD・DVDパブリッシャーは簡易ビューア付きCD/DVDメディアに保存することができること。また、簡易ビューアはデザインおよび操作性を本ビューアと同一とし、ヘルプ機能の搭載により誰でも簡単に使用可能なこと。所見レポート作成システムにて確定した所見については、PDFで画像と共にメディアに書き込むこと。	
E.3.5	CD・DVDは50枚以上連続プリントが可能なこと。	

E.放射線画像管理システム(PACS)

項番	機能要件	可否
E. 3. 6	出力したDICOMデータメディアは、IHEプロファイルPDIに準拠し、メディア内に DICOMビューアを同梱し、搬送先のPC上でCDのみで特別なビューアを必要とせず閲覧が可能なこと。	
E. 3. 7	CD・DVDのラベルは、当院所定の書式により自動的に印刷可能なこと。なお、書式などの詳細は当院担当者と協議の上決定すること。	
E. 3. 8	画像取り込みソフトウェアについては、MWM連携にて、RISと連携すること。	
E. 3. 9	画像取り込みソフトウェアについては、MPEGファイルをDICOM変換し、PACSへ送信できること。	